

## 5 Reasons Why Christians Go Through Trails

### 『クリスマンが試練に遭う 5つの理由』

カルバリーチャペル メルボルン (オーストラリア) にてメッセージ 2014/06/18 公開

パート 1 : <https://youtu.be/8wyPoO6-KnA>

パート 2 : <https://youtu.be/WEVWPheCKAk>

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスマン フェローシップ

<http://joncourson.com/> 7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

.....  
【どうして神は、敵が我々に嘯みつくのを許されるのか。】

エレミヤ書 29 章 11 節

主よ、あなたは私たちの心をご覧になり、私たちに必要なものを全てご存知です。  
そして主よ、あなたは私たちのいのちに、私たちが聞くべきことを語りかけて下さいます。ですから主よ、  
私たちはもう一度立ち止まり、心から祈ります。  
私たちに聖霊の語りかけを聞く耳を与えて下さい。  
私たち一人ひとりに。今日、この場所で、今この時に。  
この集会を離れる時には、私たちの光が明るく輝くように。  
私たちを通して、あなたの力が溢れ出るように。  
あなたの輝くいのちの光を、私たちを通して人々が見るように。  
父と子の栄光のために。この時間を祝福して下さい。  
あなたにしかできない方法で、祝福をお与え下さい。  
イエスの御名によってお祈りします。アーメン

#### パート I OBSERVATION 『観察』

光を輝かせる…主は、私やあなたのような人間も使います。とんでもない者をも。  
あなたはなぜ、使ってほしいと思うのですか？ それは、私たちが与えたものが、想像を上回る形で戻  
って来て成就することを知るために。いつか褒美がもらえるから。  
でも、最も重要なのは、カルバリーの木の上で、イエスがあなたや私、私たちにして下さったことのため  
にです。  
そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたが  
たのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたが  
たの霊的な礼拝です。(ローマ 12:1)  
それで、私たちは光を輝かせたいし成長したい。  
パウロがそうでした。パウロは、そういう人間になりたいと願いました。  
色んな所へ行き、福音を宣べ伝え、人を愛し、仕え、伝道する。

しかし、彼の道程は試練の連続。同じことが、私たちにも言えるでしょう。

使徒の働き 27 章を開いて下さい。

パウロは、ローマに行って福音を宣べ伝えたいと切望しました。

ローマで霊的に影響を与えることができたなら、ローマ帝国を変えることもできる、と彼には分かっていたからです。それでパウロは「私をローマに送って下さい。」と何年も願い、祈り続けました。そして遂に、ローマに向かいます。全く思いもしなかった形で。

彼は船で行きました。豪華客船ではありませんよ。囚人用の船です。パウロはローマ帝国の囚人として、彼の罪状を知るローマ兵と共にローマに向かいました。

今、地中海を渡ろうとしているのですが、その最中に嵐に遭い、船は激しい波に揺さぶられ、とうとう壊れそうになって沈む寸前です。

**ところが、潮流の流れ合う浅瀬に乗り上げて、船を座礁させてしまった。(使徒 27:41)**

パウロを含め 276 人の囚人や兵士、水夫たちが乗っていた船が座礁しました。

そして、へさきはめり込んで動かなくなり、ともは激しい波に打たれて破れ始めた。(使徒 27:41)

**兵士たちは、囚人たちがだれも泳いで逃げないように、殺してしまおうと相談した。(使徒 27:42)**

**しかし百人隊長は、パウロをあくまでも助けようと思って (使徒 27:43)**

彼はパウロに感心し、パウロによって祝福されていたのです。

パウロは航海の最中、彼に伝道していたんですね。そして、兵士の上に立つ百人隊長は、

**パウロをあくまでも助けようと思って、その計画を押さえ、泳げる者がまず海に飛び込んで陸に上がるように、(使徒 27:43)**

「泳げるなら飛び込むんだ！」

**それから残りの者は、板切れや、これが聖書で初登場のサーフィン！ ある者は岸まで泳ぎ、ある者はサーフィンで、その他の、船にある物につかまって行くように命じた。**

**こうして、彼らはみな、無事に陸に上がった。(使徒 27:44)**

ここで想像してみてください。276 人の兵士や囚人、水夫たちが海岸にいます。

**こうして救われてから、私たちは、ここがマルタと呼ばれる島であることを知った。(使徒 28:1)**

**島の人々は私たちに非常に親切にしてくれた。おりから雨が降り出して寒かったので、彼らは火をたいて私たちみなをもてなしてくれた。(使徒 28:2)**

**パウロがひとかかえの柴をたばねて火にくべると、(使徒 28:3)**

276 人の兵士や水夫、囚人たち。彼らの歯はガチガチ言い、膝はガクガク震え、鳥肌が立っている。みんな、ずぶ濡れで骨の髄まで冷え切っていました。

すると島の人々は火を焚いて、泳いだりサーフィンで泳ぎ着いた囚人も兵士も水夫も、みな温めてくれました。

だけど、パウロは…パウロ！ 兄弟パウロは何をしましたか!?

彼は、他の人のように火に当たってはいませんでした。彼は、岸辺を行ったり来たりして柴を集め、火にくべて人を温めました。人を助けるため、人に仕えるために。

もし私がパウロなら、「ちょっと、皆さん、私は最初に、出航してはいけないと言いましたよね。大変

なことになると。ほら、そうなったでしょ！」

「そして、来る日も来る日も嵐が続いた時に、『大丈夫。船は沈むでしょうが、私たちは助かります。』と言ったのも私ですよ。その通りになったでしょう！」

「私は預言者です。もてなしなさい。ハーブティーを、着る物を、たき火を私の所に持って来なさい。」

「私は預言者 (prophet) だ。Non-profit corporation (非営利活動法人) だ。私に仕えなさい！」でも、パウロの精神はそうではありませんでした。パウロはいつも、人に仕え、人を温める機会を探していました。だから彼は木を集め、他者を温めて仕えようとしたのです。その時、何が起こりましたか？

**パウロがひとかかえの柴をたばねて火にくべると、熱気のために、一匹のまむしがはい出して来て、彼の手に取りついた。(使徒 28:3)**

パウロはその時気づいていなかったのですが、柴の中で毒蛇が眠っていて、彼が火に入れたら、それが飛び出して来てパウロの手に噛みついたのです。残酷で非常に恐ろしい。

皆さん、このことを心に留めておいて下さい。今日、このメッセージを聞いて、「家に帰ったら、聞いたように絆を強くして、妻を愛し、子供たちを育てるぞ。それだけでなく、主と共に過ごして自分の中の光を輝かせ、人を祝福する！」と言う時、その時、“毒蛇が噛みついて来る”ことを。

毒蛇、サタンと呼ばれる敵。聖書が“竜”と呼んでいるもの。

それが地獄の火から飛び出して来て、私たちの手に噛みついて来る。

サタンに“機嫌の良い日”は決してありません。

「今日は俺も気分がいいし、カルバリーチャペル メルボルンの人たちも良い時間を過ごしている。だから、何日かはちょっと手を引いて、彼らが成長するように、彼らが輝くように、家族との時間をエンジョイするようにさせてあげよう。」なんてことは言いません。

サタンに機嫌の良い日は、絶対にはないのです。

この扉を出る時、覚えておいて下さい。「私も人を温めよう。光を当てよう。人助けをしよう。妻や子供たち、近所の人たちと過ごす時間を輝かせよう。」と思ったその時、サタンが攻撃を仕掛けて来ます。

ペテロは言いました。

**目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔がほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを探し求めながら、歩き回っています。(I ペテロ 5:8)**

蛇が攻撃しようと待ち構えているのです。

**島の人々は、この生き物がパウロの手から下がっているのを見て、「この人はきっと人殺しだ。海からはのがれたが、正義の女神はこの人を生かしてはおかないのだ。」と互いに話し合った。(使徒 28:4)**手から毒蛇をぶら下げた男を見て、人々は言いました。「この男は極悪犯に違いない。」

「こいつは海では助かったが、死ぬ運命だったんだ。殺人犯か重罪人に違いない。だから、蛇がぶら下がっているんだ。」「だから、こんな風に攻撃を受けるんだ。」

しかし、そこでパウロがしたことを、見て下さい、5節。

しかし、パウロは、その生き物を火の中に振り落として、何の害も受けなかった。(使徒 28:5)

パウロの手には蛇がぶら下がっていましたが、それを火の中に振り落として、何の害も受けませんでした。

ここで疑問に思うのは、そもそも、どうして神は、こういうことが起こるのを許すのか？

どうして神は、蛇があなたを襲うのを許すのか？

ある人は今日の日が終わる前に、またある人は人生が終わる前に、なぜ、全能の神、何でもできる神が、敵の攻撃を許すのか？

なぜ、主は蛇の攻撃を認めるのか？ 神は私たちを守れないのか？

パウロが地中海で体験したように、どうして神は、嵐が私たちを襲うことを許すのか？

なぜ神は、火の試練を受けることを許すのか？

ヤコブにもペテロにも、その経験があります。喜びの最中に火の試練がやって来る。

どうして神はそれを許すのか？ 第一、その目的はなに？ その理由は？

皆さん、よく聞いて下さい。私たちが輝こうとすると、敵が攻撃して来ます。

毒蛇が噛みつき、嵐が襲いかかり、火で燃え尽くそうとします。保証します。

もしこれを理解していなかったら私たちは混乱して、「主よ、どうしてですか？」「私はただ、人を温めたかっただけなのに、人助けをしたかっただけなのに、他の人の祝福となりたかっただけなのに、なぜこんなことを許されるのですか？」

どうして神は蛇が襲うのを許すのか。話の続きを見ていきましょう。

パウロは、その生き物を火の中に振り落として、何の害も受けなかった。(使徒 28:5)

島の人々は、彼が今にも、はれ上がって来るか、または、倒れて急死するだろうと待っていた。しかし、いくら待っても、彼に少しも変わった様子が見えないので、彼らは考えを変えて、「この人は神さままだ」と言いだした。(使徒 28:6)

はじめ、島の人たちはこう言いました。「彼は、殺人犯か重罪人に違いない。だから、蛇が襲ったのだ。」ところが、パウロがそれを振り落として何の害も受けなかった時、腫れ上がることもなく、倒れて急死もしなかった時、彼に対する考えを変えて、「この人は神さままだ」と言います。

だからと言ってパウロは「そうだ。私を拝みなさい。この私を。」とは言わず、彼はそのチャンスをしっかりと活用しました。パウロの中に住み、島の人たちのことも気にかけてくれる、真実で生ける神について伝えるチャンスを。

いいですか。ノートを取っている人は、しっかり書き留めて下さいよ。

どうして主は、我々を攻撃することを蛇に許すのか。

1 番目の理由。『観察』 observation

島の人々、地元の人たち、現地の人々。あなたの周りの人たちは、あなたや私、私たちをよく見ています。

「そりゃあ、あなたは教会の集会に行くでしょう。良くできる綺麗な妻がいて、かわいい子どもがい

て、ステキな教会で、全てが申し分ないほど順調なんですから。」

人々は、私たちが活動するのは祝福を受けることが目的で、祝福やお金を得るために、こういうことを行っていると思っているのです。

そうではない、それは間違いだ、ということを知りません。

人々はあなたや私を見て、私たちが全て上手くいっている時、全て整えられている時は何とも思いません。そのことで、彼らがほんの少しでも主に近づくことはありません。

「そりゃそうでしょ。そんなに楽な人生を送っているなら、教会にも行くし、聖書も読むでしょうよ。」と言います。

「愛する主よ、電気代の支払い期限が過ぎました。」「愛する我が主よ、仕事を下さい。」

私たちはしばしば、何かをしてもらうために主を礼拝する。それも事実ですよ。

でもそれだけではない。もっと違った、もっと深いもの。

それは、主が主であるから、彼を愛するという。何かをもらうためではありません。

私たちが主を愛するのは、主が、カルバリーの十字架で私たちを地獄から救い、彼の家族に加えて下さったから。だから、主を愛している。

与えて下さる主を愛しています。しかし与えられるのは、ただ物だけではありません。

しかし、世はそれを理解しない。世はこう考えています。

「そう、ステキな家族、良い車、素晴らしい教会だからね。」

だけど、しっかりと見ています。

あなたが医者から癌を告知されて、手の施しようがないと言われた時、あなたの商売が行き詰って資金が底をついた時、子供たちが家出をした時、離婚が成立して傷心の時、それでも、日曜日の朝、あなたが教会に行くのを見て、水曜日の夜、バイブルスタディーに行くのを見て、そして、次の日曜も今まで通り教会に来て車から降り、主が主であり、カルバリーの丘の十字架の上でなされたことを思いながら礼拝するのを見て、彼らの考えが変わり始めるのです。「あなたは何かが違う」と。

僕の友達ダニーもそう、何かが違ったんです。彼が中学生だった時のこと。

中学2年生だった彼は、いつも学校に聖書を持って行ってました。

と言っても彼が“聖徒”だったとかではなく、ただ聖書を読むのが好きだったんですね。

これは実話です。中学2年後期の生物の最初の授業で、先生がこう言いました。

「この授業では、進化論がいかにかに正当で真実か、そして進化論こそが、私たちが住むこの世界を理解する道なのだということを証明していく。この中には聖書や宗教を信じている人もいるだろう。それは構わない。良い教えもたくさんあるから。でも、聖書の創造の物語をそのまま受け入れることは到底できない。あれは象徴的な話であって、事実ではないから。」

ということで話を短くすると、ダニーはその後も聖書を持って行き続け、一方、先生の方は、自分が思ったようにダニーを納得させられなかったため、日毎にイライラが増していきました。そして、最後の授業で、「期末レポートや期末テストを見ると、君たちの多くが進化論の正当性について学んでくれたようだ。」「だけど、ダン、君の期末テストの回答を見ると、君は明らかに、進化論が論理的で妥当だとは信じていないようだね。」

「信じていません。」とダニーは言いました。

先生は「今日は最後の授業だから、君の仮説を試してみよう。」実話ですよ。

「君はいつも創造論について書き、それを信じている。だから今日は、それが本当だと納得できる証拠を見せてもらおう。それで、今日は君の理論を試してみよう。」

そう言うと、先生は3歩下がって机の引き出しを開け、Lサイズの卵を取り出しました。「皆さん、これは何ですか?」「卵です。」「ダニー、これは何かな?」「卵です。」

「その通り。この後、私はこれをコンクリートの床に落とす。すると、どうなる?」「卵が割れます。」「割れます。」「割れます。」

「そうだ。これは誰もが経験から知っていることだ。卵を床に落とすと割れる。

しかし、この卵を床に落とす前に、ダン、卵の創造主に祈ってくれ。今日は卵を割らないようにと。そうしたら、君が言うように、神が全てを造って、全てを治めていることを、この目で見て信じるができるだろうから。」

蛇が攻撃してきました!

他の生徒たちもダニーを見つめています。

ダニーは「分かりました…声を出して祈ってもいいですか?」「勿論。その方がいい。」

そこでダニーは立ち上がって、「主よ、先生が言ったことを聞かれたでしょう?先生は、あなたのみことばを全く信じていません。その上、僕の友達までも信じさせないようにしています。主よ、祈ります。どうか、先生がああ卵を落とした時、卵が粉々に割れ、そして先生は死んで床に倒れるように。イエスの御名によって。」(\*場内爆笑、拍手喝采)

先生はその祈りを聞いて、ダンを見、卵を見て、ダンを見、卵を見て、3歩下がって引き出しを開けて卵を入れました。そして「授業終わり!」(\*場内爆笑、拍手喝采)

数年前にダニーがそのことを話しに来た時、私たちは感動しました。

なぜかと言うと、彼が言うには、その翌日からは夏休みで、8人の生徒がダニーと一緒に教会のユースグループに集い、新生したクリスマンになったのです。

それが、蛇が私たちを攻撃するのを主が許す理由です。

ダンやパウロやあなたや私の手から、蛇がぶら下がるのを見ているから。

そして、私たちがそれを振り落とし、何の害も受けない時、彼らは違いに気づくのです。

どうして蛇が噛みつくのを主が許すのか?

それは、近所の人が、家族が、同僚が、偶像礼拝者が、無神論者が見ているから。

あなたが祝福されている時は、彼らは気に留めません。

しかし、彼らを噛んだ同じ蛇があなたに噛みついたのに、あなたがそれを振り払い、何も害を受けなかった時、あなたについて、また、あなたの行いについて考え方を改めるのです。これは本当です。

## パートII DESUTINATION 『目的地』

なぜ蛇が噛みつき、嵐が襲って来るのか。

2番目の理由は、DESUTINATION 『目的地』

私はこれ、好きですね。目的地。

どうして主は、嵐が来ることを許されたのか?

パウロはローマに行こうとしましたが、主はこう言われました。

「そちらではなくマルタだ。そこにはあなたが知らない人たちがたくさんいる。彼らに伝道するのだ。彼らの光となって輝き、道を照らすために、わたしは嵐を送り、あなたをそちらへ連れて行く。あなたにとっては遠回りに見えるだろうが、これもわたしの計画の一つだ。あなたが想像もしなかった所へ連れて行く。」

これが、嵐が起こるのを主が許される理由です。

私たちはこう言いますね。「なんてこった！ 解雇されてしまった！」「捨てられた！」「チームから外された！」「追い出された！」なんてあれ、そうではありません。

それは、目的地を変えるための嵐なのです。

ヨナに聞いてみましょう。彼は知っています。ヨナの話はご存知ですね？

彼は、神からニネベへ行くようにと言われましたが、「アッシリアの首都に行くなんて、絶対に嫌だ！」

アッシリア人はとても野蛮でした。彼らがしていたことは驚きです。

彼らは人間の皮膚を剥ぎ、そのまま 2 - 3 日間生かしておきました。また、捕虜のお尻から頭まで槍を刺し通して、勝ち取った町の周りに“人間シシカバブ”を並べたり、人間の頭蓋骨を取って積み重ね、7.5m~9m ほどのピラミッドを町の周辺に建てました。

それによって、“アッシリア人に手を出すな”というメッセージを送っていたのです。

頭から槍が突き出た人間シシカバブを見たなら、彼らに関わってはいけなとすぐに察しますよね。このように、アッシリア人は非常に残酷で、とんでもない民族でした。

また、彼らはかつて、北イスラエルの 10 部族を捕まえ、口に釣針を刺して、裸で砂漠を歩かせました。北イスラエルからアッシリアのニネベまでですよ。

アッシリア人はとんでもなく残酷で、だからヨナは「あんな所へは行かない！」と言ったのです。それは、彼らを恐れたためではなく、アッシリア人が火で焼かれて死ぬのを期待していたから。だから、神のメッセージを伝えたくはなかった。それでご存知の通り、ヨナは逆方向へ行くのですが嵐が襲来、これは自分のせいだと言って海に投げられました。

そこへ、クジラのような巨大な魚が来て彼を飲み込み、ヨナはクジラのお腹の中。

ヨナ書 2 章によると、彼は自分が地獄にいると思っていました。水に締め付けられ、真っ暗で、海草は頭に絡みつき、魚が顔を平手打ち。

自分は当然の報いを受けて地獄にいるんだと。しかしヨナが知らなかったこと、それは、

**「私たちは真実でなくても、彼は常に真実である。彼にはご自身を否むことができないからである。」**

**(Ⅱテモテ 2:13)**

皆さん、いいですか。よく聞いて下さい。いいですか、聞いて下さいよ。

ヨナが「何も起こらない！ 俺は大バカ野郎だ。地獄に落とされても仕方ない。」と思っている時でさえ、彼が知らなかったこと、それは、自分の手も見えないほどの真っ暗闇の狭い所に締め付けられ、閉じ込められているその真っ只中でも、クジラは…クジラは動いていたんです。クジラは動いていました。

ヨナが行くべき場所、主の光が輝く場所に彼を連れていくために、クジラは動いていた。彼がどうであ

れ、です。

その間、ヨナは祈り、そうして、クジラは目的地に泳ぎ着いて、アッシリア人がいるニネベの海岸近くでヨナを吐き出しました。ここで注目すべきは、アッシリア人は“ダゴン”という魚神を拝んでいたということ。ダゴンは半分魚で、半分人間。半魚人。

さて、アッシリア人がビーチにいと、突然、魚、クジラが人間を吐き出した！

彼らは言ったでしょう。「ダッゴン!! なんてこった!!」(\*場内爆笑)

そして、人間のヨナが出て来ました。でも、よく聞いて下さい。

彼は、クジラの胃液で服は溶け、髪の毛はなくなり、肌は色素が抜けて真っ白なんです。

その髪の毛のない、裸の、真っ白な人間が魚から出て来て言いました。

**「もう四十日すると、ニネベは滅ぼされる。」(ヨナ 3:4)**

それで町中が悔い改めました。史上最大のリバイバル！

何が言いたいかわかりやすく言うと、皆さんの中にも、こう思っている人がいるでしょう。

「俺は大バカだ。」「俺は役立たずだ。」「ずっと暗闇にいて何も起こらない。」「全く先が見えない。」「まともに考えることもできない。」「叩かれて、当然の報いで地獄の中だ。俺がバカだから。」聞いて下さい。いいですか。

**私たちは真実でなくても、彼は常に真実である。(IIテモテ 2:13)**

クジラは動いています。あなたが座り込んでいるその間も、クジラは動いている。

神は働かれています、あなたはもうすぐ吐き出されます。(＊爆笑)

あの海岸のように、あなたが最大限の影響を与え、祝福となれる場所で。

パウロに聞いてみて下さい。彼は海岸にいます。

ヨナに聞いて下さい。彼は3日後に吐き出されました。

これらは同じことで真実です。クジラは動いています！

だから主は、嵐が来ることを許すのです。

ヨナが理解したように。パウロが直面したように。

皆さんの中にも、全く先が読めず、何をやっても上手くいかない、にっちもさっちもいかないと思っている人、嵐の只中に、暗闇の中にいる人がいるでしょう。

でも、クジラは動いています。間もなくやって来ます。期待して待ちましょう。

つづく